

# 行政の役割を、 住民と確認し合いながら、 行財政改革を進めます



山口 隆之町長

んですけれど、そういう住宅政策も進めていきたいと考えています。

### 議長

若者定住ということでは、企業誘致も大事です。今の社会情勢の中で企業がどんどん来るといいうことはないんだけれども、そこはやっぱり町長含めて、われわれの責務として何とか一つでも明るい材料を出したいという思いです。

情報基盤の整備もできて、都市との情報格差が少なくなります。あとはアピール。

この大山の下の、我々が住んでいるところは、とっても素晴らしいんだと自分で言える、みんながそういう町民になっていかなければ。謙遜で「(大山町は)いやたいしたことないですわ。水がきれい、空気がきれい、ただけですが」なんていう、そんな言い方じゃなくてね。小さい時から教育でもやっていかなければ、あるいは地域の住民として常に口に出して、

「この町は素晴らしい、ここはいいところだ」ということを言っていく。

そのことが若者の定住化や企業誘致にもつながっていくと思ってるんですけどね。

### 町長

自分の町に対して誇りと自信を持っていたら、地元の産業を盛り上げていこう、その産業に就こうといった若者も増えてくるんだろうと思います。

例えば、農業は大変だ大変だと、そればかり言うのじゃなくて、農業は本当に魅力ある産業だと思っておりますから、やっぱりそういったところをもっと子どもの頃から、家庭や地域で、子どもたち、若者にその良さを伝えるということが大事だろうと思うんです。

## 大山恵みの里 構想

### 議長

大山町には特産物もたくさんありますから。そ

れらをいかに皆さんにPRして自慢して食べていただくか。

農産物も一次産業で儲けるだけでなく、加工品として売る、大山の素晴らしいロケーションを活かして、食べに来ていただく。そういう仕掛けづくりをもっとしていかなければ、それが大山恵みの里構想の原点。

自分が作って安心安全なもの、自信を持って、「どうぞ食べてください」と消費者にアピールできるくらい、生産者の顔が見える大山ブランドを作っていかなきゃ。

みんなで知恵を出し合ったら、いくらでもアイデアは出てくる。自分らがやっていくんだという気持ちをもっとやれば、それを町も手伝い、農協や漁協、民間業者の人も関わっていくことで、素晴らしいものができると思います。

### 町長

大山恵みの里構想って、これは新大山町の総合計画の中核的な計画なんです。恵みの里構想とい

うのはそんなに難しい話ではなくて、平たく言えばね、大山町に今ある産業・文化・歴史、こういうものにもう一度目を向けて、これにもっと磨きをかけましょうやということなんです。

長い歴史の中で、大山の恵みとして受け継いできたもの、それはみんな素晴らしいものなんです。さらに磨きあげて、大山という名前とともに、誇

りと自信をもって外にPRしていきましょや、それが、町の活性化にもつながるし、産業の活性化につながる。住民の自信と誇り、元気につながるんですよ。

住民の皆さんも、まずは町の中を見つめてほしい。で、大山町の中にあるものの価値をしっかりと知ってほしい。そんなような願いを含めた構想・計画なんです。

